

## Ipswitch Japan、簡易ネットワーク監視ソフトにアプリ監視プラグイン

2013/03/14

(日川 佳三=ITpro)

米イプスイッチ (Ipswitch) の日本法人であるIpswitch Japan ([関連記事](#)) は2013年3月12日、SNMPマネージャー機能を中核としたネットワーク監視ソフト「WhatsUp Gold v16」 ([関連記事](#)) の機能を拡張するプラグインの新製品として、米Oracleや独SAPなどの業務アプリケーションの稼働状況を監視できるようにする「WhatsUp Application Performance Monitor」 (APM) を発表、同日販売を開始した。価格 (税別) は、20万6500円から。



写真●米イプスイッチ (Ipswitch) でインターナショナルセールス事業担当副社長を務めるアレサンドロ・ポッコ (Alessandro Porro) 氏  
[画像のクリックで拡大表示]

前提となるWhatsUp Goldは、簡単に導入/運用できることを追求したネットワーク監視ソフトである。SNMP/WMIで監視情報を一元的に収集/管理する単一の管理サーバーソフトと、ネットワークの各所に分散配置して監視対象サーバーのレスポンス時間をポーリング調査するソフトで構成する。価格 (税別) は、管理デバイス25台の場合、下位エディションが22万3300円から、WMI監視が可能な上位エディションが30万7300円から、など。

WhatsUp Goldは、必要に応じてプラグインを追加することで、機能を拡張できる。プラグインの例として、VMware環境の情報を収集/管理、ネットワークトラフィック分析、ネットワーク機器の変更管理/構成管理、VoIP向けのQoS測定---、などがある。これらの情報を単一のWeb画面上にダッシュボード状に表示できる。なお、今回のAPMはプラグインとしては8種類目に相当する。稼働環境としてWhatsUp Goldが必要になる。

APMを使わない場合、WhatsUp Gold単体では、アプリケーションの視点に立って稼働状況や性能を監視できる業務アプリケーション/ミドルウェアは、ごく一部に限られる。具体的には、Exchange ServerとSQL Serverの二つのアプリケーションしか監視できないという (いずれもWMIで情報を取得する) 。

一方、APMを適用すると、SNMP/WMIとレスポンスのポーリングという基本的な仕組みは変わらないが、任意のアプリケーションの稼働状況を監視/管理できるようになる。標準では米Oracleや独SAPなどの35種類のアプリ

リケーションの監視プロファイルが含まれるほか、プロファイル情報を作成すれば任意のアプリケーションを監視できる。

## 「2015年まで製品のロードマップを描いている」

---

APMについて説明した米イプスイッチ (Ipswitch) のインターナショナルセールス事業担当副社長、アレサンドロ・ポッコ (Alessandro Porro) 氏 (写真) は、ネットワーク監視ソフトの市場が拡大していることと、その中でも特にAPMの市場性が高いことをアピールした。例えば、Forrester Researchの調査では、2013年の運用管理ソフト市場は336億ドルであるという。

市場の高まりを踏まえ、WhatsUp Goldについては、2015年まで年に1回のメジャーバージョンアップと四半期ごとのマイナーバージョンアップのロードマップを描いているという。また、他社と比べたWhatsUp Goldの利点として、「構造がシンプルで簡単に使えること、各種の切り口に立った情報をダッシュボード上で一元的に把握できるようにしていること」 (ポッコ氏) などを挙げる。

国内の販売代理店は全部で8社 (2013年3月現在) 。日本法人 (Ipswitch Japan) で日本事業執行役員を務める榊原徹氏は、代理店の1社でSIベンダーのアイティソリューションサービス (ITSS) との契約関係をより密接にする意向を示す。これにより、日本法人に対してユーザー企業から直接問い合わせがあった場合でも、ITSSのリソースを使い、製品の導入支援からシステム構築、サポートまでをワンストップ型で提供できるとしている。